※令和４年度以降入学生用

学校番号	217

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「最新　数学Ｂ」　（数研出版）						
副教材等	パラレルノート数学Ｂ　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では，課題に対して答えが書かれるのを待つのではなく自ら考え，周りの人と協働で考えましょう。「考える」をテーマに学習しましょう。
・問題集（パラレルノート）については，まずは自分で解き、ただ答えを求めるだけでなく，途中式や考え方も書くようにしましょう。また，各自で答え合わせをしてから提出してください。答え合わせをすることで，自分がどこでつまずいたかを知ることができます。
・何事も知ることが自分を変えることにつながります。そして，知らないことを学習し，新しい世界と出会ってください。積極的に取り組みましょう。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（1） 数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
（2） 離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
（3） 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

※令和４年度以降入学生用

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察することができる。確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができる。日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第1章　数列	第1節　数列とその和 1　数列 2　等差数列 3　等差数列の和 4　等比数列 5　等比数列の和 6　和の記号Σ 7　自然数の２乗の和 8　いろいろな数列の和 9 階差数列	a: 等差数列と等比数列について理解し，それらの一般項や和を求めることができる。いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。 b: 事象から離散的な変化を見いだし，それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 c: 事象の再帰的な関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，数列の考えを問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

1	第1章 数列	第2節　漸化式と数学的帰納法 10 漸化式と一般項 11 数学的帰納法	a：漸化式について理解し，事象の変化を漸化式で表したり，簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。数学的帰納法について理解できている。 b：自然数の性質などを見いだし，それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに，他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 c：事象の再帰的な関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，数列の考えを問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
2	第2章 統計的な推測	第1節　確率分布 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値 3 分散と標準偏差 4 二項分布 5 二項分布と期待値，分散，標準偏差 6 連続型確率変数 7 正規分布 8 二項分布の正規分布による近似	a：確率変数と確率分布について理解している。二項分布と正規分布の性質や特徴について理解している。 b：確率分布や標本分布の特徴を，確率変数の平均，分散，標準偏差などを用いて考察することができる。 c：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，確率分布を問題解決に活用しようとしている。	確認テスト レポート	確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート
		第2節　統計的な推測 9 母集団と標本 10 標本平均の分布 11 母平均の推定 12 母比率の推定 13 仮説検定	a：標本調査の考え方について理解している。正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解している。 b：目的に応じて標本調査を設計し，収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして，母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに，標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 c：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，統計的な推測を問題解決に活用しようとしている。	確認テスト レポート	確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

3	第3章　数学と社会生活	1 数学を用いた考察 2 社会で用いられる数値や指標 3 変化をとらえる	a：社会生活などにおける問題を，数学を活用して解決する意義について理解している。日常の事象や社会の事象などを数学化し，数理的に問題を解決する方法を知ることができている。 b：日常の事象や社会の事象において，数・量・形やそれらの関係に着目し，理想化したり単純化したりして，問題を数学的に表現することができる。数学化した問題の特徴を見いだし，解決することができる。問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察することができる。 c：解決過程を振り返り，そこで用いた方法を一般化して，他の事象に活用しようとしている。	確認テスト レポート	確認テスト レポート	レポート 提出ノート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度